

第3章 授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践

この章では、4校の調査研究協力校において実践していただいた取組について紹介します。4つの事例は、それぞれ特定の教科の取り組みですが、どの教科にも応用できますので、授業改善や授業研究会の在り方に視点を当てて御覧ください。

1 グループ活動による学び合いを目指した授業改善（事例1）

（1）授業改善の構想

A教諭は、受動的な授業態度の生徒に対し、グループ活動によって生徒同士の学び合いを促し、自ら学び自ら考えようとする態度をはぐくむことをねらいとして、授業改善に取り組みました。

A教諭は、「化学I」で、授業改善のために、生徒による授業評価を取り入れるとともに、次のねらいに基づいてグループ活動を取り入れました。

グループ活動のねらい

生徒は、教師の指示によって学習活動に取り組むが、受け身の姿勢が強い。そこで、グループ活動によって生徒同士の学び合いを促し、自ら学び自ら考えようとする態度を表わすきっかけとする。

6月の実践の成果と課題を踏まえて、グループ活動の成果と支援のポイントの確認を行い、10月の実践で、その検証を行いました。

6月

カードゲームの手法を用いたグループ活動

- （1）第1回の授業研究会（授業リフレクションの手法を用いた授業研究会）
- （2）授業改善の視点を明らかにするための、生徒による授業評価
- （3）教科の学習に関する意識調査

グループ活動の成果と支援のポイントの確認

- ・グループの中で、生徒同士が教え合う活動を促す。
- ・グループ活動の雰囲気が停滞しないように、途中で適切な指示を与える。

10月

カードゲームの手法を用いたグループ活動

- （1）第2回の授業研究会（授業リフレクションの手法を用いた授業研究会）
- （2）授業改善の成果を検証するための、生徒による授業評価

(2) 6月の実践の概要

①カードゲームの手法を用いたグループ活動



②授業研究会による授業改善の視点の探索

同僚の教師には授業の全般を見てもらい、授業改善の視点を探ってもらいました。

学びが成立している点・参考になる点

気になったこと・授業者への質問など



【付箋の記入例】

10:04

教師がノートを見てよいと指示したところ、確認しプリントに記入し始めた。

10:05

左隣の生徒のプリントをのぞき込んでいる。(自信なさそうな表情)

授業研究会に参加した同僚教師の声

良かった点・成果

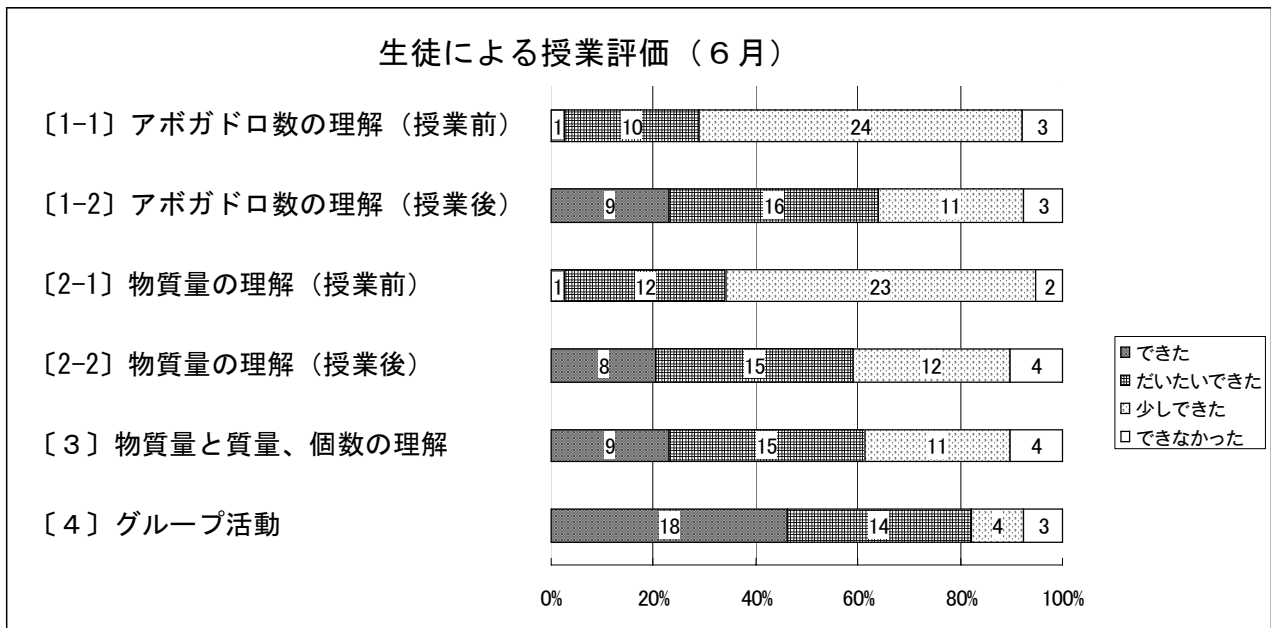
- 生徒が苦手とする分野において、ただ計算問題を解かせるだけでなく、グループ活動やゲーム的な要素を取り入れて、生徒全員に主体的に考えさせる指導ができていた。
- 理解できた生徒が理解が不十分な生徒を教える場面があり、学び合いのある授業だった。
- 公式を丸暗記させる指導よりも、時間がかかっても、悩んだり考えたりして「分かった！」と実感できる指導を工夫すると、学びの達成感がある。
- グループ活動でコミュニケーションをとりながら協力して考える生徒たちの姿を見て、プリント学習を繰り返していた自分の授業を反省した。自分の授業でも積極的に工夫したい。
- 生徒から理解できたときの感激の声が上がった。

反省点・課題

- カードの枚数の多さに困惑し、モチベーションの下がってしまったグループがあった。
- カードの操作やノートへの転記が終わらず、先生の話聞きもらしてしまう生徒がいた。
- 生徒の理解度を事前に把握していなければならない点が難しい。

③授業改善の視点を明らかにするための「生徒による授業評価」と「生活・意識調査」

6月の研究授業では、学習に関する意識やグループ活動に対する実感について、生徒による授業評価を行い、生徒の学習の傾向や授業改善の方向性を明らかにして、その後の授業改善に取り組みました。



～ 生徒の学習の傾向 ～

学校で例年実施している「生活・意識調査」からは、次のような生徒の実態が指摘できます。

- 授業にまじめに取り組もうとする生徒が多い。
- 学習内容の難しさを強く感じている生徒が多い。
- 家庭での学習習慣の確立が大きな課題であることを意識している生徒が多い。



授業改善の方向性

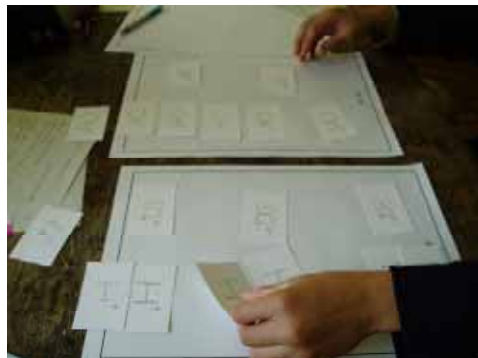
生徒による授業評価及び「生活・意識調査」を踏まえ、授業改善の方向性を決めました。

- ★家庭学習や定期考査に主体的に取り組ませるための、学習に関するガイダンスの改善。
- ★分からないことを先生や友人に聞くことがこれまで少なかったことから、活発なグループ活動は人間関係をつくり、学び合うきっかけになることが期待される。

（3）10月の実践の概要

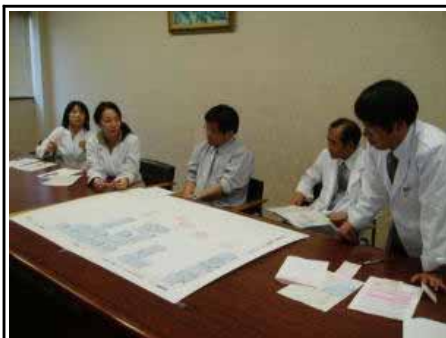
①カードゲームの手法を用いたグループ活動

A教諭は、6月以降重点的に取り組んできたグループ活動を、10月に実施した公開授業においても取り入れました。



②授業研究会における改善の成果の検証

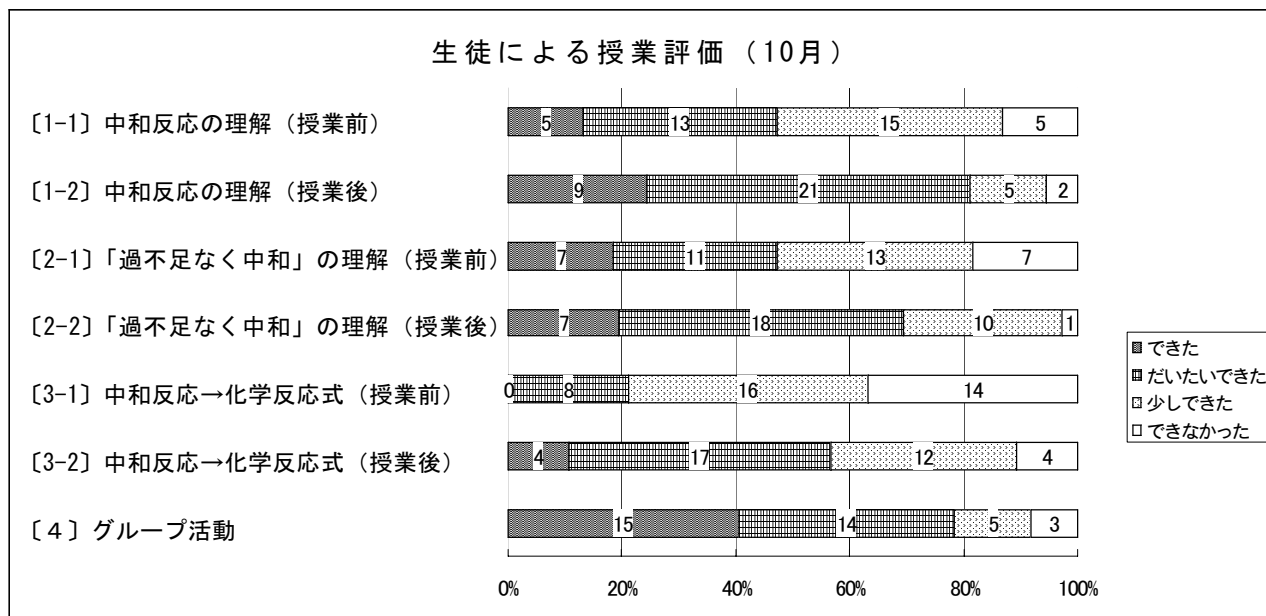
授業研究会で、同僚教師とともに改善の成果を検証しました。



- 10月の授業研究会では、同僚教師がプロンプター（進行役）を買って出ました。
- 授業リフレクションの手法を取り入れた授業研究会の体験も2度目ということもあり、活発な意見交換がなされました。
- 教師集団にもともとあった同僚性の、一層の高まりが感じられました。
- 研究授業の際に、グループ活動の効果について重点的に観察してもらったため、6月の授業研究会に比べて全体の付箋の数は少なくなりました。
- 焦点を絞った話し合いにより、短時間でも充実した授業研究会になりました。
- 下段（気になったこと）に比べて上段（学びが成立している点）の付箋が多いことから、グループ活動の成果が明らかに見てとれます。
- 後半のまとめの時間帯に関しては、振り返りの学習の取組を評価する指摘や、生徒の発表の時間の確保を課題と指摘がありました。

③授業改善の検証のための、生徒による授業評価

生徒による授業評価からは、グループ活動が生徒同士の学び合いを促し、授業の理解に手応えを感じた生徒が多かったことが分かりました。



ポイント

生徒による授業評価などによって診断的に実態を把握して、中期的な視点に立ちながら年度内に授業改善に取り組み、改善の成果も授業評価によって検証するという、まさに評価を改善に生かした実践事例です。